



回復期リハビリテーション病棟 のご案内

院内外の設備

「人と医療と未来をつなぐ」という当院の想いを実現するために設備にこだわりました

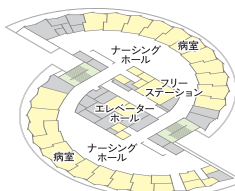
患者さんと職員をつなぐ



ナーシングホール

寄り添う看護を可能にする

地上7階建てのうち3～6階が病棟階になります。上から見ると柏の葉のように見える、半円を二つずらして合わせた形の病棟階デザインは当院の大きな特徴であり、見通しが効いて医療安全の面でも優れた構造です。医療者と患者さんを隔てる詰所という概念を無くし、スタッフと患者さんが身近な距離でコミュニケーションをとることができます。

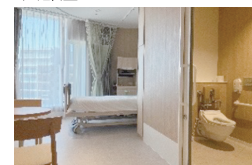


3～6F病棟階

2人部屋



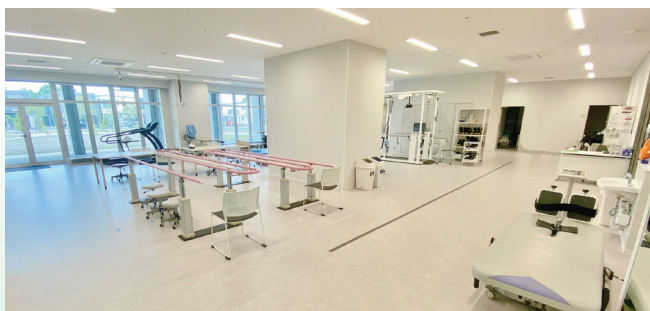
1人部屋



患者さんと未来をつなぐ

インフィニティールーム（リハビリテーション）

回復のためのインスピレーションを与える空間



広々としたリハビリエリア『インフィニティールーム』は、ブランスクエアと一体化した開放感が特徴的な空間です。リハビリを通して患者さんが新たな目標に向かって進むためのサポートをし、無限の可能性を感じられる環境を提供します。

患者さんと地域をつなぐ

ブランスクエア

患者さんの心を癒し、地域を守る、敷地内緑地



敷地内の広々とした緑地。患者さんの癒しや屋外リハビリに利用されるだけでなく、地域住民の憩いの場としても開放しています。災害時には避難所としても機能し、人々を繋ぐ役割を果たします。光の三原色が融合して白になることから、仏語「ブラン(白)」と英語「スクエア(広場)」を組み合わせています。

最大限の回復を目指して、チーム全体で役割を担う

脳卒中などの脳血管障害で、急性期治療を受けた後、安心して在宅復帰できるよう日常生活動作(ADL)の改善を目的としたリハビリテーションを集中的に行います。当病棟では、医師をはじめ看護師、介護福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー(MSW)などの専門職がチームとなり、多職種によるカンファレンスを実施し、患者さんの状態や生活環境にも合わせて個別プログラム(リハビリ実施計画書)を作成しています。退院後に、ご本人・ご家族の希望する生活が送れるように、医療、看護、リハビリテーションを提供し、支援していきます。

入院から退院までの流れ

入院



今後の予定や入院に関して説明します。

入院2週間～

ご本人・ご家族のご要望をお聞きしながら、病状・看護・介護・リハビリテーション・栄養などの現状と今後の方針について説明します。入院期間が長くなる場合は、リハビリテーションの経過説明を複数回行うこともあります。

必要に応じて

家屋調査

ご本人の同行のもと、ご自宅での動作確認を行います。住宅改修や福祉用具の利用を担当ケアマネジャーを交えて検討します。
※当院より片道30分以内としています。

退院に向けて

ご本人やご家族の要望に合わせて退院に向けた調整を行います。必要に応じて在宅サービス利用についてのアドバイスや調整、ご家族に介助方法の指導、ご本人に自主訓練の指導を行います。

リハビリテーション

各種機器を揃え、最新の療法を行います



ウェルウォーク Welwalk

歩行の改善を目的とした歩行支援ロボットです。足の麻痺により歩行が不自由な方が、自然な歩きを取得できるようにリハビリの初期段階から質・量ともに支援します。



mediVRカグラ

VR(ヴァーチャルリアリティ)技術を応用したリハビリ用医療機器です。VR空間上に表示される対象に向かって手を伸ばすという動作を繰り返すことによって脳を刺激します。歩行機能、上肢機能などの症状改善に効果を示すことが報告されています。



MELTz手指運動 リハビリテーションシステム

外骨格型のロボット装置で、AIが前腕の筋肉の電気信号を分析し、患者さんが行おうとする手の動きを認識し、ロボットが介助を行います。



ドライビングシミュレーター Driving Simulator

運転再開の希望を持つ患者さんを対象に、ドライビングシミュレーター(Hondaセーフティナビ)を用いて、運転の評価を行っています。

病棟での活動や食事も充実してます



集団音楽療法

入院生活中に、少しでも楽しくリラックスできる時間を過ごしていただけるよう、それぞれの病棟で週1回ずつおこなっています。入院患者さんやご家族、ご友人など、どなたでも参加することができます。また、個別の音楽療法も行っています。



食事

月に2度の行事食を始め嗜好調査結果も反映させ、少しでも多くの患者様に退院後も参考にしていただけるよう献立等で工夫しております。